

6月14日(月)

全 て を ご 存 知 の 神 様

聖書朗読 詩篇 3篇

私は身を横たえて、眠る。私はまた目をさます。主がささえてくださるから。
詩篇 3：5

正直に言うと、本日の聖書朗読箇所背景と自分自身の状況とを関連付けて考えることが出来ませんでした。この詩篇の背景でもあった「息子が自分を殺そうと追いかけて来る」という状況は、悲しいですし、また恐ろしくて想像出来ません。また、「陰謀を企てる人々に警戒しながら国を統治する」というダビデに与えられた責務も、私の社会的立場とはずいぶん違います。さらには、当時行われていた「複数の妻を持つ」ということも、理解できません。

しかし、「試練の中で、ダビデが孤独を感じていた」ということは、私にも分かります。その孤独感は、私たちも分かるのではないのでしょうか。試練の中で、私たちは次のように感じるものです。「今の私の苦しみを、誰も分かってくれる人がいない」「私を助けてくれる人は、誰もいない」。ダビデもそのように感じたかもしれません。しかし、そうした孤独感を全てご存知でいて下さる方がいます。その方は、私たちが感じるストレスも、私たちが受ける誘惑も、私たちが抱く恐れも、すべてご存知なのです。その方は、私たちの心の痛みを全て知っていてくださるのです。その方は、「私の回りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方」(3節)、つまり私たちの主(神様)です。

神様は、私たちの全てを積極的に知ろうとして下さる方です。そして私たちの様々な気持ちを受け止めて下さっています。そんな神様が、私たちを試練から救い出して下さろうとしているのです。この恵みは、「今日」という日を生きる上で、私にとって十分な恵みだと思えます。

讃美歌 121

祈り 神様、いつでも私たちと共に居て下さることに感謝します。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ケリー・ミラー
テキサス州ラボック

今日のカ

2021年6月14日～6月20日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月15日(火)

喜 び

聖書朗読 詩篇 4篇

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。

I ペテロ 1 : 2 3

私は、詩篇が大好きです。しかし、自分の機嫌が悪い時に読むと、最初はややうんざりしてしまう場合もあります。そのような時は、詩篇で言われていることと共感することが難しいです。例えば「喜び」や「平和」など全く感じられない日もあります。そのような時は、聖句が全く響かないのです。そして、(神様の御言葉よりも)「人間の考え」や「神に喜ばれない考え」に誘惑されそうになることもあります。いつも全てのことが調子に進んでいるのなら、「喜び」や「平和」も身近に感じやすいのかも知れません。しかし、現実の生活の中では、心揺さぶられる日、苛立つ日もあります。必ずしもいつも「平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつく」(8節) ことが出来るわけではありません。

しかし、(最初は気が進まなかったのですが) 私は、この詩篇を声に出して読んでみました。すると、私の心情に変化が起きました。聖句を音読することにより、聖句が私の口を出て、私の耳に鳴り響きました。そして聖句は、私の魂をほぐしていきました。私は、内から変えられたのです。

聖句は、神様の生きた御言葉です。御言葉は、私たちに語り掛け、私たちを変えます。今私の機嫌が悪かったとしても、御言葉に対して心の耳を開き、御言葉に聴く時、御言葉は、私たち(の魂)を癒し、私たちを変えるのです。そして、私の心は喜びで満たされていくのです。

讃美歌 187

祈り 天に居られるお父様、御言葉を与えて下さったことに感謝します。内から私を変えてください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マイク・サンダース
アイダホ州ボイズ

6月16日(水)

神 様 助 け て ！

聖書朗読 詩篇 5篇

しかし、主よ。あなたは私の周りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方です。 詩篇 3 : 3

ダビデ王の人生は、問題が多いものでした。多くの人々が王であることに嫉妬し、息子のアブシャロムさえも嫉妬しました。アブシャロムの嫉妬は、アブシャロム自身を、恨み、憎しみ、殺人、そして死へと導きました。

また、ダビデの人生には、バテ・シェバとの不道德な関係、また彼女の夫を殺害するという罪がありました。ダビデ王も、しょせん人間であり、神ではないのです。

しかしダビデは、(試練によるものであれ自分自身の罪によるものであれ) 困難な状況に置かれた際、次のことを忘れませんでした。すなわち、神様がおられ、私たちは神様に立ち返ることが出来る、ということを忘れなかったのです。そして、そして神様は立ち返る人々を温かく迎えて下さり、赦し、救いへと導いて下さることを、ダビデは忘れませんでした。

私たちもダビデ王と同じ人間で、誘惑にさらされ、誘惑に屈してしまう場合があります。そんな時、私たちも(ダビデのように) 神様に心の目を向けてみましょう。私たちが神様に立ち返ることが出来るのです。そして神様は、立ち返る人々を温かく迎えて下さり、赦し、救いへと導いて下さいます。確かに、ダビデは失敗もしました。しかし、ダビデは神様に立ち返りました。私たちも、(間違えを犯したならば) 何度でも、その都度神様に立ち返ることが大切なのです。

失敗した際、遠慮するかのようにして
神に立ち返ることをやめてしまうことは、恐ろしいことです
そのような態度こそ、神を拒否する思いに繋がるからです

—ジム・エリオット

讃美歌 239

祈り 天に居られるお父様、イエス様を私たちに与えて下さったことに感謝致します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

コンスタンス・キー・ロビンソン
テキサス州アビリン

6月17日 (木)

善人と悪役

聖書朗読 詩篇 7篇

聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。 II テモテ 3 : 16

あなたが映画の台本を書くことになったと想定して下さい。まず、どのような種類のヒーローを登場させるかを決めます。そして、そのヒーローの詳細を決めていくでしょう。話を面白くするために、悪役も必要でしょう。悪役の詳細も設定していきます。

俳優が、自分の役にどれだけ成りきって演じられるかかによって、その映画がどれだけ「信じられる」（現実味がある）映画となるかが決まります。私たちの想像力が豊かに刺激されるならば、私たちは、善人か悪役のどちらかに感情移入するかもしれません。

現実の、私たちが生きている世界では、映画のように「この人は善人」とか「この人は悪役」と決めつけることは出来ません。ですが強いて言うならば、人は皆、善人・悪役どちらの面も持ち合わせているのではないのでしょうか。聖書を読んで私たち自身を振り返ると、人間の素晴らしさも、人間の（霊的に）醜い面も、どちらも見ることが出来ます。聖書は、まさに鏡のような存在です。私たち自身の内に悪い部分があることを認識することはとても大切なことです。もし私たちが、自分たちに「悔い改めるべき点」があると気付かなければ、私たちは（気付かないまま）同じ過ちを繰り返すことでしょう。しかし、私たちが聖書に親しみ聖書に日々耳を傾けるならば、私たちは自分自身についてより深く知り、神様に「より喜ばれる」歩みをすることが出来ます。逆に、私たちが御言葉に耳を傾けないのであれば、私たちは自分自身を神様から遠ざけてしまいます。私たちは、日々聖書に照らして自分自身を見つめ、霊的に成長したいものです。

讃美歌 501

祈り 神様、私たちが自分自身についてよく知り、悔い改めるべきことに気付いたならば、謙虚に悔い改められるよう、お導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マイラ・セトリフ・ブース・リース
テキサス州ラボック

6月18日 (金)

壮大な宇宙

聖書朗読 詩篇 8篇

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。 詩篇 19 : 1

私たちの学校の生徒たちは、地球宇宙研究所という施設が提供する天体観測プログラムに参加しています。私も参加したことがあります。天体観測のための器具が参加者に貸し出されて、それを使って「金星の太陽面通過」という珍しい現象を見ることが出来ました。この現象は、金星が太陽面を小さな斑点のようになって横切っていく様子が見える現象です。

その後プラネタリウムへ行きました。夜空の星座とその特徴についての解説を聞いて、私は惑星や星について理解を深めることが出来ました。壮大な宇宙の複雑さを理解するには苦労しましたが、私は、創造主なる神の大いなる力に対して深い驚きと賛美の思いで満たされました。

私が悩みや恐れで心が重くなっている際に、この聖句を思い出します。「やめよ。知れ。わたしこそ神」（詩篇 46 : 10）。壮大な宇宙を作られた神様が、小さい存在である私をも気にかけて下さるとはなんと感謝なことでしょう。本日の聖書箇所3節には、「神様の『指のわざ』」という表現がありますが、その神様の御手の中で、私はしっかりと守られているのです。イザヤも記している通り、神様は、その御手に私たちを一人一人を刻んで（つまり、大切に覚えて）下さっているのです（イザヤ 49 : 16）。

讃美歌 90

祈り 親愛なる神様、御国を思う時、御名を賛美し、感謝いたします。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アン・スピナー
メリーランド州フレドリック

6月19日 (土)

賛美の歌

聖書朗読 詩篇 9篇

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。
コロサイ 3:16

オクラホマ州エドモンドから、春休みを利用した伝道チームがメキシコへと向かいました。国境を超える際に、警備員にメキシコでの目的地と滞在理由を訊かれました。チームリーダーは、子どもたちにイエス様について教えるためだと説明しました。警備員に「スペイン語は話せるのか？ 話せないならどうやって教えるのか？」と問われたので「スペイン語で歌います」と答えたところ、「歌ってみて！」と言われました。そこで、私たちチームは、警備員にスペイン語の賛美歌を歌って聞かせました。

神様が音楽を与えて下さったことに感謝します。音楽は個人礼拝でも、みんなで礼拝する時でも捧げることが出来ます。聖書にも、賛美について度々記されています。「私はあらゆるときに主をほめたたえる。私の口にはいつも主への賛美がある」(詩篇 34:1)。「あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいて人がいますか。その人は賛美しなさい」(ヤコブ 5:13)。「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい」(エペソ 5:19)。

聖書のメッセージを、歌というかたちで心から賛美することは、私たちの魂にとってとても良い薬とも言えます。私にはお気に入りの賛美歌があります。あなたはどうですか？

讚美歌 529

祈り 親愛なる神様、喜びと感謝の気持ちを持って賛美歌を歌えるようお導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

グローバー・シップ

6月20日(日)

神にゆだねる

聖書朗読 詩篇 10:1~12

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。
I ペテロ 5:7

私は、既に大人になった三人の娘たちから電話をもらうのがとても好きです。みんな離れ離れの場所に住んでいます。たとえ、それが悩み事などの相談だとしても、娘の声を聞くことが出来たことを嬉しく思います。むしろ、私たちを尊敬・信頼し、悩みを打ち明けてくれたことを喜ばしく思います。

神様は私たちが悩んでいる時、それを神様にゆだねて欲しいと思っておられます。神様は私たちのことを心配して下さいます。そして、私たちとより近い関係になりたいと思っておられます。そのために、是非祈りを通して神様と対話し、悩みを打ち明けてみましょう。

詩篇 10 篇の著者は、重荷を背負っているように感じていました。神様に対し 1 節で「主よ。なぜ、あなたは遠く離れてお立ちなのですか。苦しみのときに、なぜ、身を隠されるのですか」と問いかけています。そして彼は、自分が直面している苦しみを明確に説明し、邪悪な者たちに立ち向かえるよう、また救いが与えられるよう求めました。

私たちは、心の重荷を神様に打ち明けられるほど神様を信頼しているのでしょうか？ 心配事を神様にゆだねて、神様しか与えることのできない平安を受け取っていますか？

讚美歌 291

祈り 親愛なる神様、私たちの祈りに耳を傾けて下さりありがとうございます。あなたに信頼し、全ての悩みをゆだねます。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ロバート・P・リー
コロラド州デンバー